

地域づくりコーディネーターOJT 研修 ～現場カルテ～

研修No.1

現場	(活動地) 妙高市瑞穂地区		
	(背景) ※地域の状況、課題、活動開始のきっかけ 等 妙高市の新井地域南部に位置し、中山間地域の入口にある、5つの大字からなる地区。5つの大字を協議会がまとめている。平成29年度地区住民が会員となる NPO 法人みずほつとを設立。地区全体で地域づくりを進めていこうと考えているが、地域の現状(課題やニーズ)の把握が課題となっており、今年度は全住民アンケートや組織・会議・事業の棚卸しなどの地域の「見える化」に着手し、今後の展望を検討する。		
活動期間	平成29年7月～12月(見込み)	募集人数	2名
現地派遣回数	5回程度(うち1回終了)		
講師	(氏名) 石本 貴之		
	(所属) 認定 NPO 法人新潟 NPO 協会		
	(経歴) 調査会社を経て、環境省の情報拠点「地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)」に勤務。ソーシャルビジネスや協働事業に取り組む環境 NPO 等の支援、マルチステークホルダーの対話の場「フューチャーセッション」を運営する。現在、県内各地にて、行政・住民による協働取組、また人材育成事業などのコーディネートを担う。		
研修概要	(主な取組活動) ※いつ、何を、どのように 等 中学生以上住民アンケートを行い、世代ごと、地区毎(5大字)などの課題やニーズ、重要度などを把握、その結果分析をし、住民で話し合いをしながら、地域や NPO の事業計画を検討していく。 ①アンケート項目を考える意見交換(7月:終了) ②全住民アンケート実施・集計・分析(8月～9月) ③行事や組織の見直し作業(8～10月) ④アンケート結果を含めた現状の共有(9～10月) ⑤今後の取組の方向性や具体策の検討(10月以降)		
	(習得可能スキル) ・地域の「見える化」手法:主に、行事や組織の棚卸し作業、全住民アンケートの設計および集計分析方法 ・話し合いを円滑に進めるためのプログラム設計 ・NPO等の組織の作り方、事業計画づくりの考え方		

地域づくりコーディネーターOJT 研修 ～現場カルテ～

研修No.2

現場	(活動地) 村上岩船地域 (事業名) 平成 29 年度 地域医療を支えるまちづくり事業		
	(背景) ※地域の状況、課題、活動開始のきっかけ 等 当地域では、医療資源不足から起こる医療の疲弊、適性受診の問題など、地域医療が抱える課題が深刻な状況となっています。そこで地域住民と医療・保険・福祉関係者・消防本部などが情報共有し、対応策を検討しながら、地域住民の意識を高めることを目的にこの連続講座が企画されました。		
活動期間	H29. 8～H30. 1	募集人数	1 名
現地派遣回数	4 回～5 回		
講師	(氏名) 大滝 聡		
	(所属) NPO 法人 まちづくり学校		
	(経歴) ※肩書きのみ 総務省地域力創造アドバイザー 東北電力まちづくりパートナー NPO 法人まちづくり学校 代表理事 (校長) NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター 理事 長岡造形大学 非常勤講師		
研修概要	(主な取組活動) ※いつ、何を、どのように 等 新潟県村上地域振興局地域保健課 (村上保健所) 主催する、地域医療と健康を考える連続講座という事業をコーディネートします。 内容的にはワールドカフェ形式の意見交換会を毎回ファシリテートし、そこで生まれた意見やアイデアが見える化し、資料にします。 <b>【難易度は決して高くありません】</b> ○第 1 回 9 月 13 日 (水) 18 : 30～20 : 30 テーマ「病院における医療の現状と課題」 ○第 2 回 10 月 6 日 (金) 18 : 30～20 : 30 テーマ「病院の機能分担と上手の受診方法」 ○第 3 回 11 月 22 日 (水) 18 : 30～20 : 30 テーマ「村上地域の在宅医療の取組」 ○第 4 回 1 月 13 日 (土) 18 : 30～20 : 30 テーマ「消防の仕事と救急搬送の現状と課題」 ○第 2 回検討会 1 月末 (地域の関係者のみで要支援者、高齢者を取り		

巻く救急医療体制の検討)

(習得可能スキル)

様々なジャンルの人たちの中でどのように一体感を生み出すか、また合意を形成するかといった、参加の場のコーディネート技術を習得させます。併せて、そのまとめ（資料化）の手法も学んでいただきます。

地域づくりコーディネーターOJT 研修 ～現場カルテ～

研修No.3

現場	(活動地) 糸魚川市 (事業名) 糸魚川市地域リーダー育成事業		
	(背景) ※地域の状況、課題、活動開始のきっかけ 等 糸魚川市では一昨年から地域運営組織改革を中心に様々なまちづくり事業を展開していますが、これからの糸魚川を担う若い方々のまちづくり意識は決して高くありません。そこで糸魚川市周辺に住む若手を対象とした人材育成事業を2ステップに分けて展開させ、段階的に地域を支えていく人材を育てていきます。		
活動期間	H29. 7～H30. 2	募集人数	1～2名
現地派遣回数	5回 (1泊2日を2クールという講座を含む)		
講師	(氏名) 大滝 聡		
	(所属) NPO 法人 まちづくり学校		
	(経歴) ※肩書きのみ 総務省地域力創造アドバイザー 東北電力まちづくりパートナー NPO 法人まちづくり学校 代表理事 (校長) NPO 法人都岐沙羅パートナーズセンター 理事 長岡造形大学 非常勤講師		
研修概要	(主な取組活動) ※いつ、何を、どのように 等 1. 地域人材力活性化交流会 (以下、「糸 JAM」とする) 若者どうしの交流を目的とした意見交換会 計3回開催 (第1回目は9月6日 19:00～21:00、他は未定だが、1月頃まで) <b>【難易度：低】</b> 2. 地域づくりコーディネーター養成講座 糸 JAM などを通じて意識の高い方に参加を促し、地域づくりのスキルを合宿形式で教え込む講座 第1クール 10月28日 (土) ～29日 (日) 初日 10:00～17:00、2日目 9:00～16:30 第2クール 11月18日 (土) ～19日 (日) 初日 10:00～17:00、2日目 9:00～16:30 <b>【難易度：中】</b>		

(習得可能スキル)

まちづくりの人材育成とはどのようなプログラムで、どのようにコーディネートするのかを学んでいただきます。併せて糸 JAM ではファシリテーター技術とまとめ作業のスキルを、養成講座では、まちづくりの考え方から、計画づくりやまちあるき調査方法、中間支援組織のあり方まで幅広く学べます。

## 地域づくりコーディネーターOJT 研修 ～現場カルテ～

**研修No.4**

現場	(活動地) 新潟県内および東京都内 (背景) ※地域の状況、課題、活動開始のきっかけ 等 この数年、地方創生という名のもとに全国各地で移住者の受入が積極的に行われ、都市部の人材の争奪戦が繰り広げられている。地域おこし協力隊を例に挙げると、最近では全国で協力隊を受け入れているため、“募集しても人が集まらない”という状況が県内各地で見られる。首都圏で開催される移住セミナーにおいても、“参加者が集まらない”など、地域の情報発信は大きな転換期を迎えている。 このような状況の中で、本研修では“首都圏に向けた地域情報の発信”をテーマに、その考え方や具体的な手法を学んでいただく。		
	活動期間	2017年10月～2018年1月	募集人数
現地派遣回数	3回		
講師	(氏名) 金子 知也 (所属) Iターン留学『にいがたイナカレッジ』 (公益社団法人 中越防災安全推進機構 ムラビト・デザインセンター)		
	(経歴) 緑のふるさと協力隊を経て、東京で地域づくりコンサルタント会社を設立し、6次産業化や移住支援に従事。2012年に長岡市に移住し、Iターン留学『にいがたイナカレッジ』を立ち上げ、中山間地域の担い手育成に取り組む。同プログラムは、その定住率(約9割)の高さなどから注目されるようになった。イナカレッジでは、移住女子コンテンツの開発、700人以上が集まる『全国地域仕掛け人市』、にいがたライフスタイルカフェなど、一線を画す情報発信やイベントなどを開催する。		
研修概要	(主な取組活動) <b>【地域の情報発信、移住促進などに取り組む人向けプログラム】</b> この研修では、新潟県が12～1月(予定)に実施する『地域の魅力発信セミナー』を題材として、首都圏における情報発信等を学んでいただく。 9月：首都圏の若者の動向や情報発信等についての講義を行った後、首都圏で実施するイベントの企画の立案方法等を学ぶ。 <b>【研修】</b> 10月：出演者・関係者との交渉手法等を学ぶ。 11月：イベントの情報発信手法を学ぶ <b>【研修】</b> 12～1月：実際のイベントの運営手法を学ぶ <b>【出張】</b> (習得可能スキル) ・地域情報の発信手法 ・集客可能なイベントコンテンツの考え方、企画運営の方法など		

地域づくりコーディネーターOJT 研修 ～現場カルテ～

研修No.5

現場	<p>(活動地) 村上市及び関川村</p> <p>(背景) ※地域の状況、課題、活動開始のきっかけ 等                  少子高齢化が急激に進行する地区で、住民自治の進化（自分の地域は住民自らが考え、自ら行動する）を促すために、中学生以上の全住民アンケートを実施し、住民意識・ニーズの可視化を行った上で、今後の地域づくり・住民自治の方向性を住民同士で話し合う場を設ける。一連のプロセスを経て、「住民自らが考え・アクションを起こす」という機運を一気に加速させる。</p>		
活動期間	2017年10月～2月	募集人数	各地区1～3名
現地派遣回数	<p>(全参加が条件) 関川村霧出地区：3回                  (単発参加OK) 村上市神林地区：5地区で各1回                  村上市上海府地区：1回                  関川村七ヶ谷地区：1回</p>		
講師	<p>(氏名) 斎藤 主税</p> <p>(所属) 特定非営利活動法人 都岐沙羅パートナーズセンター</p> <p>(経歴) 地方におけるコミュニティビジネス育成・地域づくり活動支援・参加型まちづくりのエキスパートとして、複数のNPOに携わりながら、幅広い分野・地域でコーディネート活動や講演・研修等を展開。現在、NPO法人まちづくり学校副代表理事、NPO法人にいがたエキナン会副理事長、NPO法人点空社理事、NPO法人みらいずworks理事 他。</p>		
研修概要	<p>(主な取組活動) ※いつ、何を、どのように 等                  村上市・関川村の4地区で実施する一連の取り組みについて、                  ①住民ニーズの可視化（住民アンケートのデータ分析・資料作成）                  ②住民同士の話し合いの場の企画運営                  を実際に担当（一部分のみ・あくまでも作業補助）しながら、「地域の現場を動かす」ためのコーディネート術を講師が詳しく解説・伝授する。</p> <p>(習得可能スキル)                  ①住民意識の可視化（中学生以上全住民アンケート）の具体的な方法                  →設問設定、データの集計・分析、住民へのプレゼン方法など                  ②住民同士の話し合いの進め方（ワークショップ）の企画運営スキル                  ③具体的なアクションにつなげるためのコーディネート術                  ※同様の取り組みを他地域で実施する際はフォローアップも行う。</p>		

地域づくりコーディネーターOJT 研修 ～現場カルテ～

研修No.6

現場	(活動地) 糸魚川市		
	(背景) ※地域の状況、課題、活動開始のきっかけ 等 糸魚川市では現在地域おこし協力隊を3名任用している。 この地域おこし協力隊の人達が行政・地域の関係者とスムーズに活動が出来るようにするためにアドバイザーとしてサポートを行う事になっている。		
活動期間	2017年6月～3月	募集人数	1名
現地派遣回数	9回(うち2回は実施済み)		
講師	(氏名) 多田 朋孔		
	(所属) 特定非営利活動法人地域おこし		
	(経歴) 2010年2月に地域おこし協力隊として十日町市に移住。移住当時6世帯13名だった池谷集落を中心に自身もお米や野菜を生産しながら、地方での起業支援など、地域おこしに関する様々な事業を展開。現在池谷集落は11世帯24名となり、限界集落を脱却した。フォーブスジャパンによるローカル・イノベーター・アワード2017において「地方を変えるキーマン55人」に選出される。		
研修概要	(主な取組活動) ※いつ、何を、どのように 等		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊に関するアドバイザー業務全般</li> <li>・行政担当者からの状況ヒアリング、打合せ</li> <li>・地域おこし協力隊からの状況ヒアリング、打合せ</li> <li>・地域おこし協力隊の活動関係者からの状況ヒアリング、打合せ</li> <li>・行政担当者、地域おこし協力隊員との合同会議の開催</li> <li>・現地訪問</li> </ul> <p>上記を通じて、地域おこし協力隊が市からのミッション遂行と地域の要望の実現と本人の自己実現を両立できるような支援を行う。</p>		
		(習得可能スキル)	
<p>地域おこし協力隊を導入した市町村に対して、第3者として地域おこし協力隊制度を上手く運用させるためのサポートの方法を実地で学ぶ事が出来る。関係者の利害が食い違う際の解きほぐし方を学び、前向きに活動を支援する手法を学ぶ事が出来る。起業を控えた地域おこし協力隊員がいるので、その人の支援を通じて起業に関する知識を学ぶ事が出来る。</p>			